

1 自己評価及び外部評価結果

事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	1970101315		
法人名	社会福祉法人千歳会		
事業所名	グループホーム青沼		
所在地	甲府市青沼二丁目 23番 1号		
自己評価作成日	平成22年12月10日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新 1 - 2 - 12		
訪問調査日	平成23年1月21日		

事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

地域密着型事業所として「地域に根ざしたホームづくり」を目標に推進している。その手段として、推進会議には地域包括支援センター・自治会役員・民生委員・近隣住民等の委員で構成され、その計らいで老人クラブ・婦人会の有志が来訪し、太鼓の披露・歌を唄う等して交流している。地域で開催される運動会・神社の祭典・文化祭等へ参加あるいは見学し、親睦の輪を広めている。近所の八百屋さんには、ほぼ毎日買い物に行き、また、市街地にあるのでスーパー・ドラッグストア等に出かけ買い物を楽しんでいる。定期的に「選択メニュー」と称してスーパーに出かけ、昼食に好みのパンや弁当を買い求め喫食している。時折、回転寿司店・ファミレス・ラーメン屋等に出かけ外食も楽しんでいる。

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)】

市街地に立地しているこのホームは、運営推進会議の参加メンバーである地域の方々の各方面への働きかけが、現在の活動に大きな影響を与えている。地域の様々な催しへの参加があり、特に運動会では競技にも加わり、住民との交流も生れている。避難訓練では地域住民に利用者の誘導係を担ってもらうなど、協力体制も築かれている。外出支援の取り組みは、利用者の希望があればすぐに実行する体制であり、個別にも対応し毎日の買物や近隣の散歩はもちろん、遠近の観光地へのドライブ、四季折々の花見など頻繁に外出をしている。職員は利用者との関わりを多く持つ事を心掛け、食事の時間帯は利用者と一緒に作った料理を食べ、食後もゆったりと椅子に座り、利用者との会話を楽しむ時間を取るなど、利用者寄り添い、思いやりと敬う気持ちが大事である理念に添って、質の高い介護を目指し取り組んでいる。

.サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目 9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の 2/3 くらい 3. 家族の 1/3 くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目 11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の 2/3 くらい 3. 職員の 1/3 くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の 2/3 くらい 3. 家族等の 1/3 くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム青沼

セル内の改行は、(Alt+)+ (

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営						
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念及び運営基本方針を玄関及び介護ステーションへの掲示の他、職員個々に手渡し、それを日々念頭に入れて業務に精励することを基本としている。また、会議等で理念を掘り下げて話し合い、人を愛する根幹である人間愛に満ちて最大の努力を惜しむことなく最良の介護を行うように全職員が取り組んでいる。	理念及び運営基本方針を玄関及び介護ステーションへの掲示の他、職員個々に手渡し、それを日々念頭に入れて業務に精励することを基本としている。また、会議等で理念を掘り下げて話し合い、人を愛する根幹である人間愛に満ちて最大の努力を惜しむことなく最良の介護を行うように全職員が取り組んでいる。	人間愛に基づき、最大の努力で最良の介護を行うことを理念に掲げ、基本方針を6か条にまとめ、職員が日々の業務を行う上での心得が示されている。特に介護の基本である、利用者に寄り添い思いやりと敬う気持ちの大事さは、会議など機会あるごとに職員に伝えている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の運動会・神社の祭典・文化祭等に参加あるいは見学している。また、日常的に近所の八百屋・スーパー等買い物や散歩に出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたりお話をし交流している。	自治会に加入し、地域の運動会・神社の祭典・文化祭等に参加あるいは見学している。また、日常的に近所の八百屋・スーパー等買い物や散歩に出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたりお話をし交流している。	運営推進会議の地域のメンバーからの各方面への繋がりが、事業所の活動に直結している。地域の様々な催しへの参加や見学、婦人会や老人会から訪問があり、銭太鼓の実演、折紙や傾聴のボランティアを招くなど地域との交流が深まっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通して積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催で地域グループホーム、小規模多機能事業所が定期的に交流会を行い、実践内容報告や事例発表等して情報交換している。地元高校介護福祉科生徒の実習も受け入れている。	地域包括支援センター主催で地域グループホーム、小規模多機能事業所が定期的に交流会を行い、実践内容報告や事例発表等して情報交換している。地元高校介護福祉科生徒の実習も受け入れている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議には事業計画及び報告の他、委員から意見・質問・要望を受け、その中から提案された事項等話し合い、運営に反映している。自己評価・外部評価の他、家族アンケート調査結果についても報告し、調査で明らかになった課題についても意見を聴く等して改善策に取り組んでいる。	会議には事業計画及び報告の他、委員から意見・質問・要望を受け、その中から提案された事項等話し合い、運営に反映している。自己評価・外部評価の他、家族アンケート調査結果についても報告し、調査で明らかになった課題についても意見を聴く等して改善策に取り組んでいる。	1月と3月に開催する予定で、何を議題にするかの苦労はあるが、自治会長・民生委員・利用者や家族・地域の代表4人の9名が参加している。行事の報告やホームの内情を報告し、また、運動会や神社の祭事など様々議題になり、地域との活動などに結びついている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃より連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	甲府市介護サービス連絡協議会の会員で、会が開催する事業や研修会に参加し、担当者との対話の機会は多々ある。また、会のサービス向上委員及び広報宣伝部担当委員で運営にも関わっている。	甲府市介護サービス連絡協議会の会員で、会が開催する事業や研修会に参加し、担当者との対話の機会は多々ある。また、会のサービス向上委員及び広報宣伝部担当委員で運営にも関わっている。	利用者の様子や相談・状況報告などは、地域包括支援センターに行っている。困難事例が生じた場合は、市の関係窓口や介護保険課の担当者とは頻りに連絡をとり、意見や要望も含め、毎月報告をしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設時から全職員が身体拘束をしないことを基本と認識し、介護に当たっている。身体拘束排除に関するマニュアルも整備しており、常時、習得可能な体制になっている。利用者が帰宅願望や外出しそなう様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒にドライブしたり近所を散歩したりして気持ちを落ち着かせるよう配慮している。	開設時から全職員が身体拘束をしないことを基本と認識し、介護に当たっている。身体拘束排除に関するマニュアルも整備しており、常時、習得可能な体制になっている。利用者が帰宅願望や外出しそなう様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒にドライブしたり近所を散歩したりして気持ちを落ち着かせるよう配慮している。	交通の激しい道路に面しているが、門扉だけが解錠ボタンで開閉され、正面玄関・ベランダ・階段など出入りが自由である。また、毎日の散歩やドライブなどで利用者の気分転換を図っている。介護上の抑圧的な言葉使いやスピーチロックなど、職員は会議等で指導を受け、現場でも職員同士で気付き合い、身体拘束排除への意識を高めている。	

自己 外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
		ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員勤務マニュアル及び研修に参加した職員が会議等の場で活用し、法に関する理解浸透や遵守に繋げて虐待防止に取り組んでいる。職員が何気なく発した言葉や態度が虐待と受け止められることが懸念されるので、常にそのようなことのないように話し合い注意して業務に当たっている。	職員勤務マニュアル及び研修に参加した職員が会議等の場で活用し、法に関する理解浸透や遵守に繋げて虐待防止に取り組んでいる。職員が何気なく発した言葉や態度が虐待と受け止められることが懸念されるので、常にそのようなことのないように話し合い注意して業務に当たっている。		
8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用していた方が本年当初まで入居(現在退所し特別養護老人ホームに入所)していた。権利擁護に関する研修会に参加する等してある程度、当該制度に関して認識はしている。従って、必要性が出た場合は活用するよう支援している。	成年後見人制度を利用していた方が本年当初まで入居(現在退所し特別養護老人ホームに入所)していた。権利擁護に関する研修会に参加する等してある程度、当該制度に関して認識はしている。従って、必要性が出た場合は活用するよう支援している。		
9	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に運営方針等を具に説明し、利用者及び家族等の要望を聞いて可能な限り対応することを理解していただき同意を得ている。また、退居に当たっても利用者の状況変化により契約解除に至る場合は、対応方針を相談し、方向づけをしている。	契約時に運営方針等を具に説明し、利用者及び家族等の要望を聞いて可能な限り対応することを理解していただき同意を得ている。また、退居に当たっても利用者の状況変化により契約解除に至る場合は、対応方針を相談し、方向づけをしている。		
10	6) 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が相談事や要望・意見・不満など直接管理者に、若しくは介護員・介護支援専門員にあるいは運営推進会議の場で言えるように日ごろから心がけている。家族(親族や親しい友人等含む)には来訪時の他、電話や定期的に便りや暮らし振りを写真を添えて報告している。出された要望等は会議等で検討し対応している。	利用者が相談事や要望・意見・不満など直接管理者に、若しくは介護員・介護支援専門員にあるいは運営推進会議の場で言えるように日ごろから心がけている。家族(親族や親しい友人等含む)には来訪時の他、電話や定期的に便りや暮らし振りを写真を添えて報告している。出された要望等は会議等で検討し対応している。	利用者・家族が参加する運営推進会議・面会・介護計画作成時、電話など家族からの意見を聴く機会としている。病気の時、受診への不安の解消に、事業所側が通院支援することになった。また、転倒の予防への要望には、職員と検討し見守りの強化を図り対応している。	
11	7) 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催する全体会議や主任・介護支援専門員等との話し合いにおいて、運営全般に関して意見や提案を聞く機会を設け、サービス全般に亘り質の向上に努めている。代表者(当ホームは花菱荘荘長が職務執行者)は毎月1回以上来訪し、職員(時には会議に出席)及び利用者等と対話する等して運営に反映している。	毎月開催する全体会議や主任・介護支援専門員等との話し合いにおいて、運営全般に関して意見や提案を聞く機会を設け、サービス全般に亘り質の向上に努めている。代表者(当ホームは花菱荘荘長が職務執行者)は毎月1回以上来訪し、職員(時には会議に出席)及び利用者等と対話する等して運営に反映している。	全体会議など職員は管理者と気づきや意見を気軽に言える関係が築かれ、また、毎月荘長が訪れた折、職員との交流も図られている。研修への参加希望や利用者が作業し易い台の高さへの提案、台所の電気製品が調子が悪い事の訴えなど、気軽に提案がなされ受け入れられている。	
12	就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は利用者の生活状況を把握し、管理者や個別に職員と対話したりして意思疎通を図り、職員が向上心を持って働くよう働きかけている。職員の資質向上のため、介護支援専門員・介護福祉士等の資格を取得できるように積極的に受験の機会を確保している。	代表者は利用者の生活状況を把握し、管理者や個別に職員と対話したりして意思疎通を図り、職員が向上心を持って働くよう働きかけている。職員の資質向上のため、介護支援専門員・介護福祉士等の資格を取得できるように積極的に受験の機会を確保している。		
13	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外及び法人グループで開催される各種研修には正規・嘱託・パート職員を問わず受講できるようにしている。参加した職員は必要により会議で発表(勉強会)したり、報告書(資料等)を全職員が閲覧できるようにしている。新人職員に対しては、最初の1~2か月程度、ケアの技術面の他、利用者との関わり方等について丁寧な指導を実施している。	事業所外及び法人グループで開催される各種研修には正規・嘱託・パート職員を問わず受講できるようにしている。参加した職員は必要により会議で発表(勉強会)したり、報告書(資料等)を全職員が閲覧できるようにしている。新人職員に対しては、最初の1~2か月程度、ケアの技術面の他、利用者との関わり方等について丁寧な指導を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会及び甲府市介護事業者連絡協議会主催の研修会・グループワークや事例発表・検討等を通じて、地域内外の多くの施設等と交流し、情報交換等で研修したことをサービスの質の向上に活かしている。	県グループホーム協会及び甲府市介護事業者連絡協議会主催の研修会・グループワークや事例発表・検討等を通じて、地域内外の多くの施設等と交流し、情報交換等で研修したことをサービスの質の向上に活かしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居決定前に情報や事前訪問若しくはホーム見学等により、必ず本人に会って心身の状況や本人の思いに向き合い、利用が決まった場合は職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。(認知症の度合いにより家族等に聞くことが多々ある。)	入居決定前に情報や事前訪問若しくはホーム見学等により、必ず本人に会って心身の状況や本人の思いに向き合い、利用が決まった場合は職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。(認知症の度合いにより家族等に聞くことが多々ある。)		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定前に事前訪問あるいはホーム見学等により、家族に会って利用希望者の心身の状況やこれまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況等、出来るだけ詳しく聞き、信頼関係を築いている。	入居決定前に事前訪問あるいはホーム見学等により、家族に会って利用希望者の心身の状況やこれまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況等、出来るだけ詳しく聞き、信頼関係を築いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い・状況等を確認し、空気がない場合、可能な限り柔軟な対応して空気が出るまで他のサービスを紹介している。本人と家族にとって「何が一番問題なのか」を見極め、その問題解決のためのサービスを提案し理解をしてもらい対応している。	本人や家族の思い・状況等を確認し、空気がない場合、可能な限り柔軟な対応して空気が出るまで他のサービスを紹介している。本人と家族にとって「何が一番問題なのか」を見極め、その問題解決のためのサービスを提案し理解をもらい対応している。		
18		本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、普段から利用者に教えてもらう場面が多い。また、そうした場面が多くもてるようにセッティングや工夫し、協働しながら穏やかに、そして和やかに生活できるように配慮している。	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、普段から利用者に教えてもらう場面が多い。また、そうした場面が多くもてるようにセッティングや工夫し、協働しながら穏やかに、そして和やかに生活できるように配慮している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密にして、利用者の様子や職員の思いを細かく伝えることで、家族と職員の思いが徐々に重なり、利用者を支えていくための協力関係を築けることが多くなっている。	家族との情報交換を密にして、利用者の様子や職員の思いを細かく伝えることで、家族と職員の思いが徐々に重なり、利用者を支えていくための協力関係を築けることが多くなっている。		
20	Ⓔ	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、その関係を断ち切らないように心がけ、知人や友人等が訪問したりして継続的な交流をしている。また、馴染みの美容院やお店に行ったり、命日やお彼岸に墓参りする等、一人ひとりの生活習慣を尊重している。	本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、その関係を断ち切らないように心がけ、知人や友人等が訪問したりして継続的な交流をしている。また、馴染みの美容院やお店に行ったり、命日やお彼岸に墓参りする等、一人ひとりの生活習慣を尊重している。	友人・親戚宅への訪問時、送迎支援をしている。たまに友人の来訪、華道教授だった利用者の弟子たちが毎月のように訪ねて来たり、また馴染みの床屋に通うなど、利用者との関係継続への支援を大事に守っている。美容院やお墓参りは家族対応で行われている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴き相談に乗り、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくり等職員が調整役となり支援している。毎日のお茶や食事等職員と一緒に食べ、円滑に行くように配慮している。利用者は心身の状況や気分、表情で変化することもあり注意深く見守り対応している。	個別に話を聴き相談に乗り、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくり等職員が調整役となり支援している。毎日のお茶や食事等職員と一緒に食べ、円滑に行くように配慮している。利用者は心身の状況や気分、表情で変化することもあり注意深く見守り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	方針として、退居した方を訪ねたり、家族の様子を聞いたりして関係を断ち切らないようにしている。近時、退居者の中にそのような対象者がいないため途絶えている。以前そのような関係で再入居し生活している方がいる。	方針として、退居した方を訪ねたり、家族の様子を聞いたりして関係を断ち切らないようにしている。近時、退居者の中にそのような対象者がいないため途絶えている。以前そのような関係で再入居し生活している方がいる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけ、把握に努めている。言葉や表情の中から、その真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通困難な方には、家族や関係者から情報を得るようにしている。	日々の関わりの中で声かけ、把握に努めている。言葉や表情の中から、その真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通困難な方には、家族や関係者から情報を得るようにしている。	昼食の時間帯など、一人ひとりと関わりを持つ事も多く、一緒に食事を終え、休み時間も利用者と一緒に対話し、本人の思いや意向の把握をしている。全ての利用者に平等に声掛けをしたり、家族の情報などから本人の意向を把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅や病院を訪問したり、または来訪していただき若しくは入居時に本人や家族、関係者等から聞き取るようにしている。入居後も折に触れ、本人や家族にどんな生活をしてきたかを聴いたりして介護サービスに活かしている。	自宅や病院を訪問したり、または来訪していただき若しくは入居時に本人や家族、関係者等から聞き取るようにしている。入居後も折に触れ、本人や家族にどんな生活をしてきたかを聴いたりして介護サービスに活かしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像をくみ取り一日の生活に取り入れている。生活・心理面の視点や、できないことよりできることに注目し、その人全体の把握に努めている。	利用者個々の生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像をくみ取り一日の生活に取り入れている。生活・心理面の視点や、できないことよりできることに注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良(暮らすための課題とケアのあり方)について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で、思いや意見(要望)を聞き、反映させるようにしている。アセスメント・モニタリングを含め職員間で意見交換やカンファレンス等も行っている。利用者が自分らしく暮らせるようホーム外の関係者(訪問調査時、ケアマネジャー等)の意見も含めて課題となることをスタッフ間で話し合い介護計画の作成に活かしている。	本人や家族には日頃の関わりの中で、思いや意見(要望)を聞き、反映させるようにしている。アセスメント・モニタリングを含め職員間で意見交換やカンファレンス等も行っている。利用者が自分らしく暮らせるようホーム外の関係者(訪問調査時、ケアマネジャー等)の意見も含めて課題となることをスタッフ間で話し合い介護計画の作成に活かしている。	本人や家族の意見や、職員の気づきや日々の暮らしの様子を個人別記録帳や業務の連絡ノートなどに記録し、3か月に1回のモニタリングで評価している。カンファレンスは全体で検討し見直しをおこなっている。また、随時に会議を開くこともある。家族には計画書を良く読み理解してもらっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルし、食事摂取量、排泄等身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。何時でも職員が確認できるようになっており、勤務開始前の確認を義務付けている。職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。それに基づき介護計画の見直しをしている。	個別にファイルし、食事摂取量、排泄等身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。何時でも職員が確認できるようになっており、勤務開始前の確認を義務付けている。職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。それに基づき介護計画の見直しをしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて協力病院、医院以外の通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努めている。	本人・家族の状況に応じて協力病院、医院以外の通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らし続けられるよう、地域の自治会長や民生委員の計らいによりボランティアの呼びかけの他、訪問も受けている。また、地域生活を継続していくには地元警察署・消防署等の他、周辺施設への働きかけをして連携を取るよう取り組んでいる。特に甲府南警察署とは連携を密にして夜間の巡視を強化して頂いている。	利用者が安心して地域での暮らし続けられるよう、地域の自治会長や民生委員の計らいによりボランティアの呼びかけの他、訪問も受けている。また、地域生活を継続していくには地元警察署・消防署等の他、周辺施設への働きかけをして連携を取るよう取り組んでいる。特に甲府南警察署とは連携を密にして夜間の巡視を強化して頂いている。		
30	(1)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居相談時、事業所協力病院で診療可能な病気については本人若しくは家族の承諾を得て、紹介状によりホーム対応で通院支援している。事業所の協力医の他、利用前からかかりつけ医での医療を受けられるよう、また、新たな病気についても家族と相談しながら複数の医療機関と関係を密にして受診している。	入居相談時、事業所協力病院で診療可能な病気については本人若しくは家族の承諾を得て、紹介状によりホーム対応で通院支援している。事業所の協力医の他、利用前からかかりつけ医での医療を受けられるよう、また、新たな病気についても家族と相談しながら複数の医療機関と関係を密にして受診している。	入居前のかかりつけ医を希望する利用者には、そのままに支援し、事業所の協力病院や、歯科や皮膚科や神経内科などの受診もある。通院介助は全て事業所が行い、病状の詳細や投薬やその後の処置などの様子はすぐに家族に報告している。また、利用者の声を電話で聴くことで、家族は安心することができている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師の資格を持つ職員(2名)を配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、協力病院とある程度相談できる関係にあり、状況に応じて対応している。	正看護師の資格を持つ職員(2名)を配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、協力病院とある程度相談できる関係にあり、状況に応じて対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、適宜面会に行き、回復状況等担当看護師及びソーシャルワーカーから聞く等して対応している。また、家族とも情報交換しながら、退院支援に結びつけている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、適宜面会に行き、回復状況等担当看護師及びソーシャルワーカーから聞く等して対応している。また、家族とも情報交換しながら、退院支援に結びつけている。		
33	(2)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人、家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の機能が重度化しホームでの生活が困難となった場合、できるだけ早い段階から本人や家族、主治医と話し合い、現段階では介護老人保健施設や特別養護老人ホームへ移っている。待機者の多い中で特別養護老人ホーム等への移行が困難な実情であるが、ターミナルケアに備えての本格的な検討や準備には至っていない。(研修会に参加して情報は得ている。)	心身の機能が重度化しホームでの生活が困難となった場合、できるだけ早い段階から本人や家族、主治医と話し合い、現段階では介護老人保健施設や特別養護老人ホームへ移っている。待機者の多い中で特養等への移行が困難な実情であるが、ターミナルケアに備えての本格的な検討や準備には至っていない。(研修会に参加して情報は得ている。)	個人的にリスクマネジメントの誓約書を交わしたり、入居時に老人福祉施設などとの契約がなされている。また、ケアマネジャーを含め2人の看護師から、日常の医療処置の対応の指導があり、職員の不安は減っている。しかし、重度化の状態の対応への職員のケアの質や、体制的な面で踏み切れないのが現状である。	重度化した場合、事業所として最大限の支援方法や、急変時の対応について家族と話し合い、共有する方針の統一を期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員講師(前年度も)による救命救急法の実技指導を受けた経緯はある。従って、初期の対応方法は習得している。然し、定期的には実施していない。事故発生時のマニュアル及び夜間の緊急対応に関する方法については整備しており、周知徹底を図っている。	消防署員講師(前年度も)による救命救急法の実技指導を受けた経緯はある。従って、初期の対応方法は習得している。然し、定期的には実施していない。事故発生時のマニュアル及び夜間の緊急対応に関する方法については整備しており、周知徹底を図っている。		
35	(3)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、それに基づき、年4回訓練を行っている。時には、近隣住民も参加(応援)のもとに避難誘導に協力してもらい、万一の災害時に際し、協力体制にある。また、訓練の度ごとに避難経路の確認、緊急連絡体制・地域広域避難場所の確認、消火器の使い方等についても防火管理者指導のもとに実地訓練をしている。	マニュアルを作成し、それに基づき、年4回訓練を行っている。時には、近隣住民も参加(応援)のもとに避難誘導に協力してもらい、万一の災害時に際し、協力体制にある。また、訓練の度ごとに避難経路の確認、緊急連絡体制・地域広域避難場所の確認、消火器の使い方等についても防火管理者指導のもとに実地訓練をしている。	1階と2階のユニットで、エレベータは使わず、利用者と共に階段を降りる訓練をしている。また、ホーム内の状況に詳しく、地域の人に誘導係をお願いし、夜の想定を1回含め、年に4回訓練を行っている。2階は非常階段がないため、ベランダと屋上が避難場所となっている。災害用備蓄も3日分位準備されている。	

自己 外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
		ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14) 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に当事業所の理念及び運営の基本方針を念頭において業務に精励している。つまり、利用者に対し人生の先輩として敬意を払い、馴れ合いの中でも本人の尊厳を無視した言葉かけや態度、ケア等に最大限気配りを怠らず対応している。採用時に「個人情報保護に関する誓約書」を提出してもらい、守秘義務について理解をしていただく共に在職中は勿論、退職後も知り得た情報を漏らすことのないよう管理を徹底している。	職員は常に当事業所の理念及び運営の基本方針を念頭において業務に精励している。つまり、利用者に対し人生の先輩として敬意を払い、馴れ合いの中でも本人の尊厳を無視した言葉かけや態度、ケア等に最大限気配りを怠らず対応している。採用時に「個人情報保護に関する誓約書」を提出してもらい、守秘義務について理解をしていただく共に在職中は勿論、退職後も知り得た情報を漏らすことのないよう管理を徹底している。	管理者は新任職員に段階を経て、職員の心得と共に介護上のプライバシーへの配慮の指導を行っている。また、慣れからくる言葉掛けや対応が、プライバシーを損ねる場合があるとし、常に会議の中で理念に触れ、職員に注意を促している。介護中での言葉使いなどの気づきは、職員同士で注意がなされている。	
37	利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったりメモなどを使い、些細なことでも本人が決める場面をつくっている。(飲みたいもの、食べたいもの、メニュー、する、しない等)	利用者に合わせて声をかけ、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったりメモなどを使い、些細なことでも本人が決める場面をつくっている。(飲みたいもの、食べたいもの、メニュー、する、しない等)		
38	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。外出(買い物や散歩)についても一人ひとりの体調や状態に配慮し、その日その時の気持ちを尊重して柔軟に対応している。	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。外出(買い物や散歩)についても一人ひとりの体調や状態に配慮し、その日その時の気持ちを尊重して柔軟に対応している。		
39	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の衣服、外出時の服装は基本的には本人の意向で決めて、職員は見守りや支援が必要ときに手伝う自分で決められない方には一緒に考えて本人の気持ちに沿った支援をしている。また、理容については本人の希望に合わせたカットをしている。	普段の衣服、外出時の服装は基本的には本人の意向で決めて、職員は見守りや支援が必要ときに手伝う自分で決められない方には一緒に考えて本人の気持ちに沿った支援をしている。また、理容については本人の希望に合わせたカットをしている。		
40	(15) 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を取り入れ立て、調理・盛り付け・片付け等も一緒にを行い、職員もテーブルを囲んで和やかな雰囲気食べている。月1回程度の割合で「選択メニュー」と称し、スーパーに出かけ個々に好みの弁当等を買って昼食に取り入れている。また、年に数回ファミレスや回転寿司等で外食している。	献立は利用者の希望を取り入れ立て、調理・盛り付け・片付け等も一緒にを行い、職員もテーブルを囲んで和やかな雰囲気食べている。月1回程度の割合で「選択メニュー」と称し、スーパーに出かけ個々に好みの弁当等を買って昼食に取り入れている。また、年に数回ファミレスや回転寿司等で外食している。	食事の1時間位前から、野菜を洗ったり、包丁で切るなど、手馴れた炊事作業が始まる。テーブルを拭いたり配膳するなど、利用者の持っている力を発揮する場面が多く見られた。職員は見守りや声かけに徹しながらも、利用者と長く触れあうことを大事と心得て食事と一緒に利用者との会話を楽しんでいる。献立は、塩分に配慮がなされ、職員の工夫が伺える。	
41	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取カロリー1600を基準にして献立を立てて実施している。糖尿の基準値が高い方や肥満、頻尿等の方には、極力その人に合う栄養バランスを考慮しながら対応している。また、一人ひとりの食事や水分の摂取状況を記録や申し送り職員が共有している。	1日の摂取カロリー1600を基準にして献立を立てて実施している。糖尿の基準値が高い方や肥満、頻尿等の方には、極力その人に合う栄養バランスを考慮しながら対応している。また、一人ひとりの食事や水分の摂取状況を記録や申し送り職員が共有している。		
42	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけをして、口の中を他人に触られる利用者の気持ちに配慮しつつ、一人ひとりの力に応じて職員が見守ったり、介助している。就寝前に義歯を外し洗浄液に浸している。	毎食後、歯磨きの声かけをして、口の中を他人に触られる利用者の気持ちに配慮しつつ、一人ひとりの力に応じて職員が見守ったり、介助している。就寝前に義歯を外し洗浄液に浸している。		

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのサインを全職員が把握しあからさまな誘導でなくさりげなく支援している。失敗してしまった場合でも、極力本人が傷つかないように手早く周囲に気づかれない等の配慮しながら対応している。時間や習慣を把握し、トイレ誘導することでトイレで排泄することを促している。	一人ひとりのサインを全職員が把握しあからさまな誘導でなくさりげなく支援している。失敗してしまった場合でも、極力本人が傷つかないように手早く周囲に気づかれない等の配慮しながら対応している。時間や習慣を把握し、トイレ誘導することでトイレで排泄することを促している。	リハビリパンツとパットの利用者に対して、自立にむけて声掛けを続けた結果、取り外すことができ布パンツになった。また、失禁の時は、見えないところで小声で介助をし、トイレ誘導は、廊下を一周しながら、さりげなく声掛けをしプライドを傷つけないケアを実践している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤(便通薬)等を必要とする利用者には、主治医の指示により個々の状態に合わせた使用量、頻度で対応している。便秘予防として繊維質の多い食材や乳製品(毎日のヤクルト等)を取り入れている。散歩・食事の手伝い・掃除等適度な運動で体を動かすことも日課とし自然排便に取り組んでいる。	下剤(便通薬)等を必要とする利用者には、主治医の指示により個々の状態に合わせた使用量、頻度で対応している。便秘予防として繊維質の多い食材や乳製品(毎日のヤクルト等)を取り入れている。散歩・食事の手伝い・掃除等適度な運動で体を動かすことも日課とし自然排便に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回程度、朝から1人で入浴できる体制になっており大変好評である。着脱や入浴の介助は個々の状態を把握して対応している。入浴を拒む人に対して、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせた入浴支援をしている。	週3回程度、朝から1人で入浴できる体制になっており大変好評である。着脱や入浴の介助は個々の状態を把握して対応している。入浴を拒む人に対して、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせた入浴支援をしている。	お風呂の順番は、個人の要望を受入れたリ、クジで決めたりと工夫がみられる。やや大きめの浴槽に一人ずつ、介助椅子を使ったり、手すりを利用して、職員の見守りの中、安全に入浴が楽しめている。拒む人には、上手に声掛けを行い、入りたくない時は、無理強いはいしない。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。個々の体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるよう支援している。夕食後からは穏やかに安心して時間の過ごし方にチームで取り組み、就寝に向けて工夫している。寝付けない方には温かい飲み物を飲み、おしゃべり等で対応している。	日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。個々の体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるよう支援している。夕食後からは穏やかに安心して時間の過ごし方にチームで取り組み、就寝に向けて工夫している。寝付けない方には温かい飲み物を飲み、おしゃべり等で対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の他、処方箋のコピーをケース毎に整理し、職員が内容を把握している。内服は本人に手渡し、ケースによっては口に入れて服用まで確認している。処方の内容、容量等が変り状態変化が見られるときは詳細な記録を取り、かかりつけ医と連携し対応している。	お薬手帳の他、処方箋のコピーをケース毎に整理し、職員が内容を把握している。内服は本人に手渡し、ケースによっては口に入れて服用まで確認している。処方の内容、容量等が変り状態変化が見られるときは詳細な記録を取り、かかりつけ医と連携し対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で個々の力を発揮してもらえるよう出来そうな仕事をお願いし、その都度、感謝の言葉を伝えている。外出や地域の行事参加、催し物の見学にも出かけている。季節的には花や野菜の植付け、手入れ収穫までしている。また、衣服の補修、毛糸編み等利用者の経験や知恵を発揮する場面をつくっている。	得意分野で個々の力を発揮してもらえるよう出来そうな仕事をお願いし、その都度、感謝の言葉を伝えている。外出や地域の行事参加、催し物の見学にも出かけている。季節的には花や野菜の植付け、手入れ収穫までしている。また、衣服の補修、毛糸編み等利用者の経験や知恵を発揮する場面をつくっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日のお天気具合を勘案し、本人の希望にある程度応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性に繋がるよう散歩、ドライブ・買い物、あるいは公園等に出かけている。また、年間を通して初詣・花見・いちご狩り・紅葉見学等に出かけストレス発散等に活かしている。	その日のお天気具合を勘案し、本人の希望にある程度応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性に繋がるよう散歩、ドライブ・買い物、あるいは公園等に出かけている。また、年間を通して初詣・花見・いちご狩り・紅葉見学等に出かけストレス発散等に活かしている。	職員の外出支援のスタンスは、とても軽やかで実行力がある。常に利用者の希望に耳を傾け、買物や散歩等は家庭と変わらないほどである。遠近の観光地へのドライブ、四季折々の自然との触れあいも大事にしている。また、車椅子の人も一緒に外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所の八百屋への買い物は日常的にしており、買い物したという満足感を味わっている。また、利用者の中にはお金を所持している方もおり、スーパー等で買い物し、手持ちのお金で支払っている。	近所の八百屋への買い物は日常的にしており、買い物したという満足感を味わっている。また、利用者の中にはお金を所持している方もおり、スーパー等で買い物し、手持ちのお金で支払っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・親族・友人等へ電話や手紙(暑中見舞い、年賀状、俳句をつくる等)は自由に出来るようになっており、利用者の要望に応じて対応している。電話の場合、他の利用者に会話がある程度聞こえない場所に設置してある。	家族・親族・友人等へ電話や手紙(暑中見舞い、年賀状、俳句をつくる等)は自由に出来るようになっており、利用者の要望に応じて対応している。電話の場合、他の利用者に会話がある程度聞こえない場所に設置してある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からホーム内全てがバリアフリーになっており、ホールや廊下等ゆとりのある広さで、浴室、トイレ等表示が分かりやすい配置になっている。ホールや廊下等の飾りつけ(写真等)は季節に合うように利用者と一緒に考えて、自分が住んでいる家だという意識を高めてもらえるような工夫をしている。	玄関からホーム内全てがバリアフリーになっており、ホールや廊下等ゆとりのある広さで、浴室、トイレ等表示が分かりやすい配置になっている。ホールや廊下等の飾りつけ(写真等)は季節に合うように利用者と一緒に考えて、自分が住んでいる家だという意識を高めてもらえるような工夫をしている。	各居室から出ると、五感を刺激する料理の匂いや音がする台所とみんなの顔が集まるホールがある。観梅の花や、水耕栽培の花が咲き季節感を味わえる。壁には利用者の筆文字の俳句・折々の写真などが貼られている。コタツとテレビが置かれた畳コーナーは、ボランティアの活動にも使用される。日当たりの良いベランダの出入りは自由で、物干し・菜園を設け、生活の質を高めている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール及び居間等に椅子やテーブル、共用空間にソファを置き、写真や絵画、花等で装飾し、利用者同士や家族等とも気軽に話ができる居心地の良い空間をつくっている。	玄関ホール及び居間等に椅子やテーブル、共用空間にソファを置き、写真や絵画、花等で装飾し、利用者同士や家族等とも気軽に話ができる居心地の良い空間をつくっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベッド・タンスの他、利用者一人ひとりが使い慣れた椅子やテーブル・収納セット・テレビの持ち込み等自由にしており、落ち着いて生活ができるようにしている。	備え付けのベッド・タンスの他、利用者一人ひとりが使い慣れた椅子やテーブル・収納セット・テレビの持ち込み等自由にしており、落ち着いて生活ができるようにしている。	ベッド・タンス・洗面台は備え付けてある。一人ひとりの行動範囲や転倒など安全に配慮し、仏壇・ゆったり目の椅子などが持ち込まれている。また、季節物の整理は、ホーム側で倉庫や屋上で管理し、居心地の良い生活の支援をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」わかることを活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シンクや調理台、洗面所等利用者の使い易い高さで設置しており、生活環境のあらゆるところに、自立した生活ができるように配置している。	シンクや調理台、洗面所等利用者の使い易い高さで設置しており、生活環境のあらゆるところに、自立した生活ができるように配置している。		